

富士見市防災環境カルテ

関沢2丁目東  
関沢2丁目旭

町会

位置番号 22

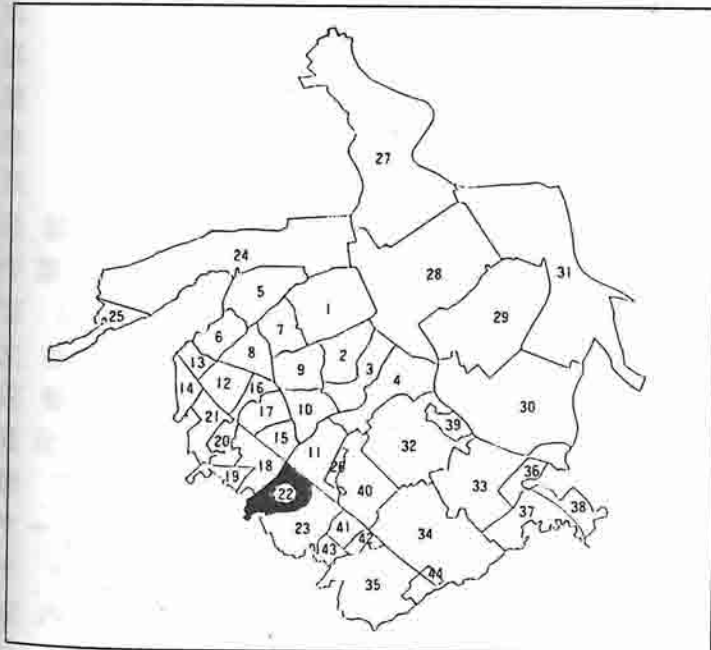
概況

関沢2丁目東町会、関沢2丁目旭町会は、富士見市の西部に位置し、南側は富士見江川の上流部に面し、一部富士見江川の支川沿いに北上する浅い谷（浸食凹地）と北側に三日月形の浅い谷が見られる台地（台地段丘）で形成されている。北東側に東武東上線が通り、浅い谷は、盛土されて住宅地に、また、北西、南側の浅い谷も同様に盛土されて住宅地、商店街となっている。台地は、武蔵野の緑を少し残し、宅地化されている。

水害は、水害履歴から台風に伴う大雨により、北東側の浅い谷にある畑が冠水し、西側（富士見江川の上流）の住宅密集地で家屋浸水の被害を受ける内水災害が予想される。

地震災害は、木造建物密集地で出火した場合、延焼の危険性がやや高いと予想される。

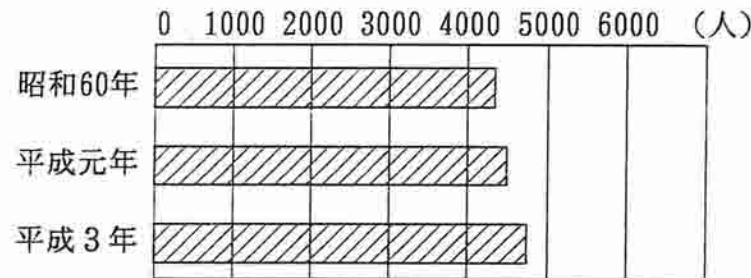
位置図



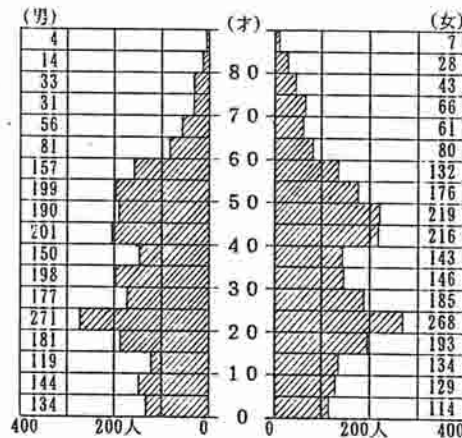
1. 基礎指標

・面積	0.267 km <sup>2</sup>
・人口(平成3年10月1日現在)	男 2,348人 女 2,352人 計 4,700人
・人口密度	17,603.0人/km <sup>2</sup>
・寝たきり老人数	5人
・ひとり暮らし老人数	28人
・世帯数	1,671世帯

人口推移



年齢別人口 (平成3年)



・商住工混在率住居系	94.2%
店舗系	4.6%
工業系	1.2%

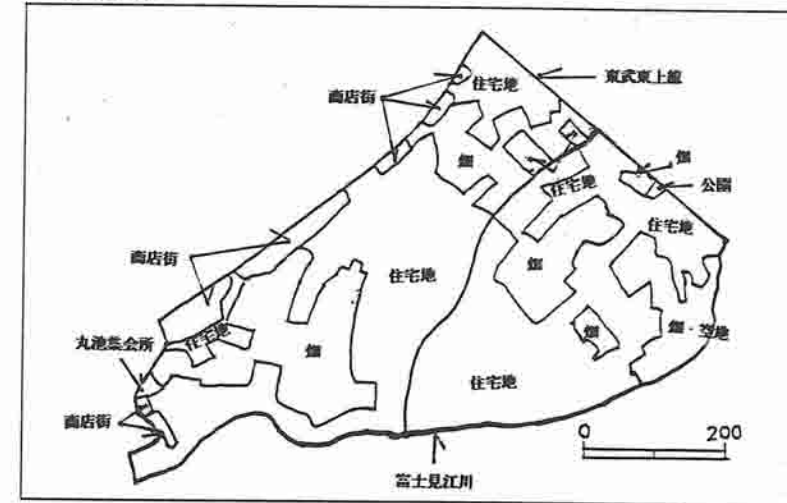
富士見市防災環境カルテ

関沢2丁目東  
関沢2丁目旭

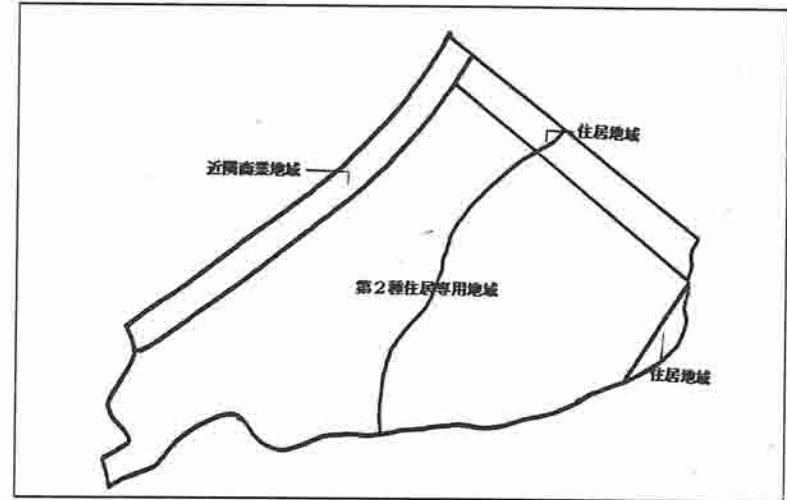
町会

位置番号 22

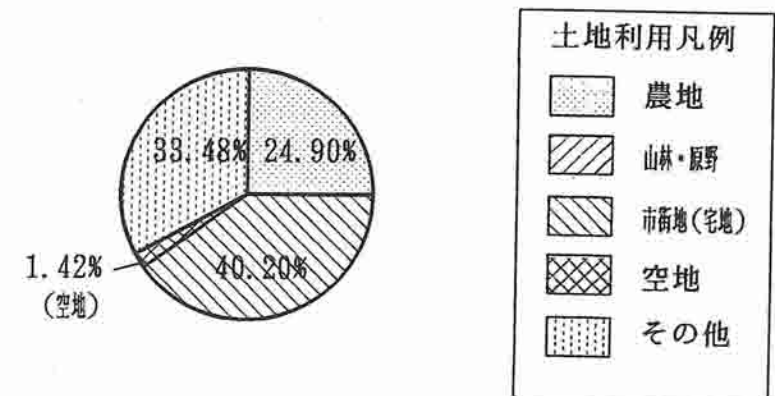
町会現況図



用途地域図



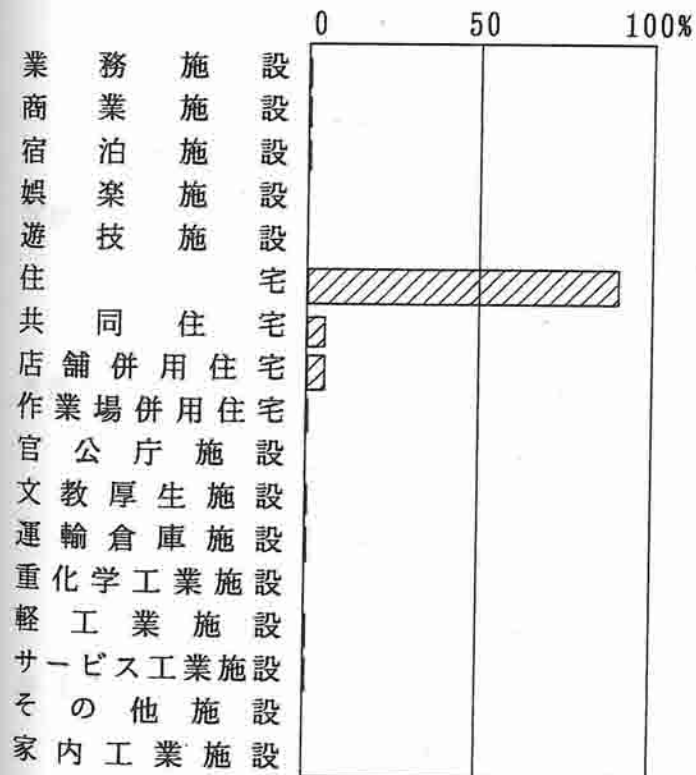
土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	1,573棟	
木造建物	1,330棟	
非木造建物	243棟	
・建物面積	57,418.40㎡	
木造建物	47,747.00㎡	
非木造建物	9,671.40㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	89.3%	
・木造率	84.6% (1,330棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	12棟	
・同上率	0.9%	
・建物階層別現況(木造建物)		
1階	237棟	17.8%
2階以上	1,093棟	82.2%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	42本	157.3本/㎏
・幹線道路率	1本	3.7本/㎏
・公共空地面積	989.6㎡	
・公共空地率	0.4%	
・1人あたり公共空地	0.2㎡/人	

・公共空地内容(\*指定避難所)

名称	面積
1. 高校	0㎡
2. 中学校	0㎡
3. 小学校	0㎡
4. 公園	0㎡
5. 丸池集会所*	989.6㎡

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	26本
・1消火栓あたり世帯数	64.3世帯/本
・消防水利貯水施設数	12 ( 3 ) 箇所 ( )内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	1箇所
・一般取扱所	1箇所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0箇所
・地下タンク貯蔵所	2箇所

6. 既往災害

家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和51年 9月(氾17号)	21棟	0棟	か所
" 57年 9月(氾18号)	52棟	13棟	か所
" 58年 7月(大雨)	82棟	7棟	か所
平成元年 8月(大雨)	24棟	0棟	か所
" 3年 9月(氾18号)	4棟	2棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
・崖崩れ被害( 年 ~ 年) 0件			
・火災出火件数( 年 ~ 年) 0件			
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0箇所	
病院	0箇所	
医院	1箇所	鶴馬医院
休日診療所	0箇所	
警察	0箇所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0箇所	
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

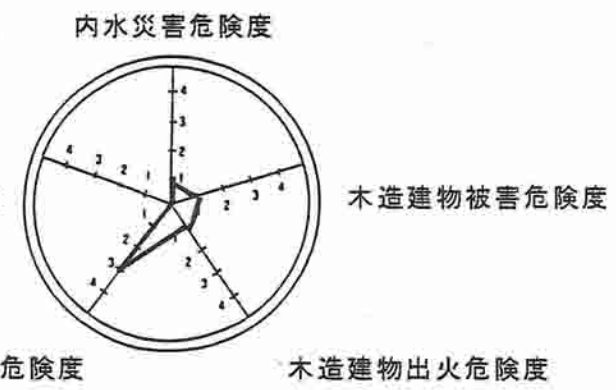
8. 危険度評価

・内水災害危険度	1ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	1ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	浅い谷 2	1ランク
危険度	液状化危険度		0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4



9. 地盤条件

地盤は、台地部で硬く、浅い谷（関沢2丁目5番地、6番地、7番地の一部、15番地、24番地、25番地、26番地の一部）で比較的軟らかい。台地部で震度5（+）（強震の強い方）、浅い谷で震度6（-）（烈震の弱い方）の地震が予想される。

10. 問題点の整理

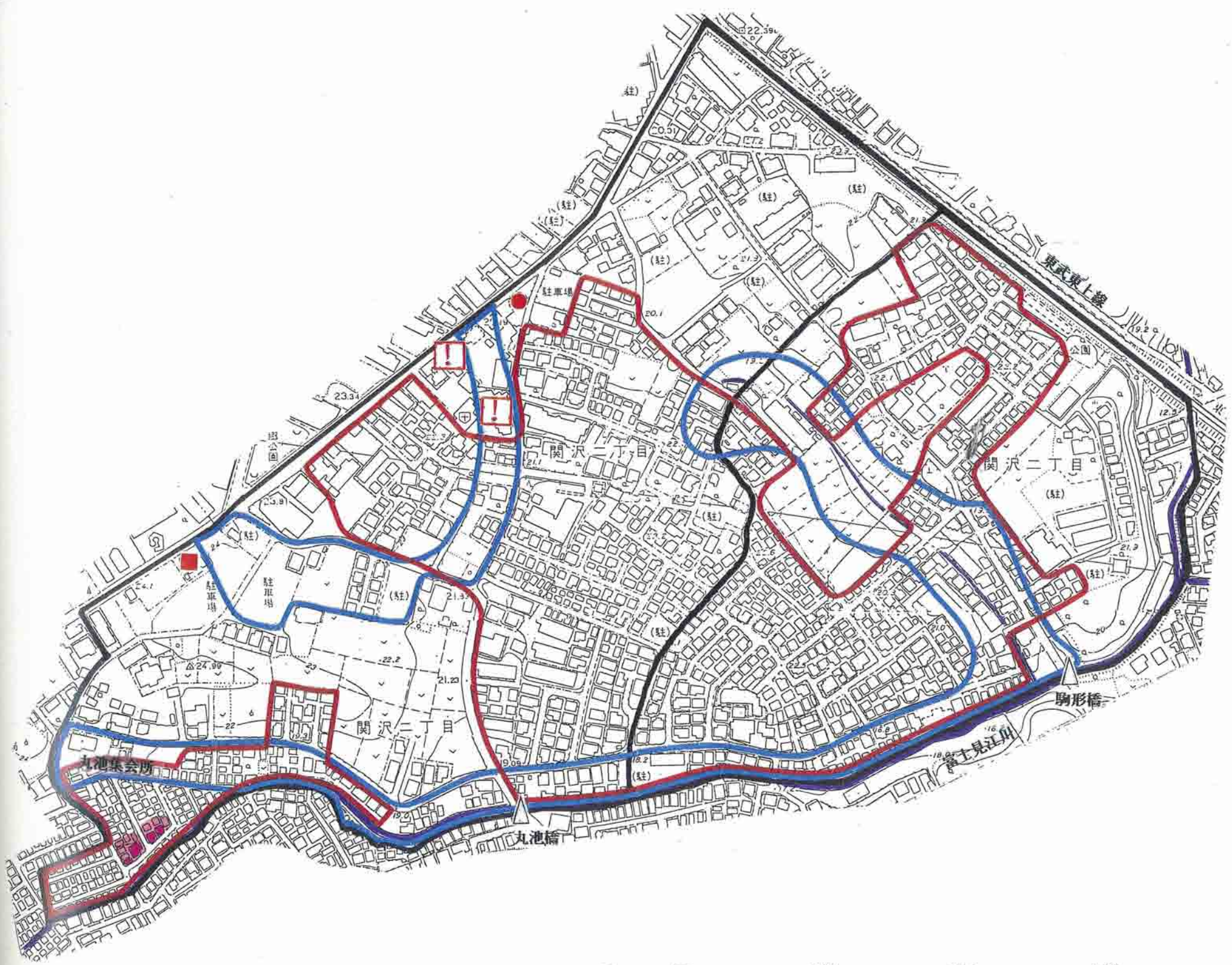
災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	富士見江川上流で溢水のため家屋浸水が、また、浅い谷で下水路の溢水のため道路、畑等が冠水している。	1. 水防能力	消防施設は無い。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	台地部では地盤条件が良いので倒壊の危険性は低い。ただし、浅い谷、富士見江川沿いにある古い木造建物が倒壊する恐れがややあるので注意を要する。	3. 消防能力	世帯数と比較して消火栓数が少ない。富士見江川の上流域の住宅地、商店街の生活道路の幅員が狭いため、消防車の消火活動を妨げる恐れがあるので注意を要する。
4. 出火危険	出火の危険性は低いと予想される。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率は、50%から70%と見込まれるため、浅い谷、富士見江川沿いの住宅地で火災が発生した場合、延焼の危険性がやや高いと予想される。	5. 避難収容力	町内会には丸池集会所が避難所に指定されているが、収容力は低い。関沢小学校（関沢3丁目東町会）を共用する。 1人あたりの公共空地は0.2㎡/人と見込まれる。
6. その他の災害	無い。		

11. 解決の方向性

富士見江川上流域の内水災害を防止するため富士見江川の改修を進める。また、地下水の噴出による床下浸水被害があり、対策を検討する必要がある。  
 富士見江川沿いの住宅地、商店街の生活道路から、また、台地の住宅地から避難可能な道路へ出るために、これら生活道路の幅員が狭いため拡幅が必要であり、また、看板、ブロック塀、自動販売機の倒壊、転倒により通行が妨げられる恐れがあるので、これら危険物の倒壊、転倒の予防対策の指導が望まれる。

※ 想定震度 5（+）（強震(強)）

防災現況図A(災害発生要因)



凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立 体 交 差
⬜	木造家屋密集地域
—	河 川 ・ 水 面
⚡	急傾斜地崩壊危険区域
⬜	盛 土
⬜	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)

■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

